

「児童図書購入資金の贈呈」

香川県遊技業協同組合に加入する株式会社たまやは、香川県内の主要図書館に、20年にわたり児童図書購入金額の贈呈を行ってきた。本賞は、事業の継続性ととともに、児童の人間形成への貢献が高く評価されたものである。

● 香川県遊技業協同組合
----- 組合員数 90人



平尾 和義 理事長

このたびは、栄えある「青少年育成賞」をいただき、誠にありがとうございました。本活動は、国の将来を託す青少年、特に児童期の健全育成を願って始めたことですが、20年間にわたる地道な活動がこのように高く評価されたことを大変嬉しく思います。組合としても、今回の受賞を糧として、今後さらに地域に密着した、地道な社会貢献活動を積極的に推進していきたいと思っております。



青少年育成賞

選考理由



社会貢献活動審査委員会 委員
松尾 守人 氏

読書の習慣を無くした青少年が問題とされ、超党派の「活字文化振興国会議員連盟」が結成される時代。読書を通じ健全な人間に育つことこそ、青少年に対する国家的希求と言えるのかもしれませんが。“児童のときから本に接して欲しい”との思いでの総額1億円の資金投入はもちろん、20年間という継続性に敬意を表したいと思っております。地域コミュニケーションへの寄与にも期待します。

20年にわたり
1億円を超える読書支援

“児童のときから読書の楽しさを知ってもらいたい”“読書を通して知識とともに創造力を養い将来を担う子どもたちの人間形成に寄与したい”“読書を通して家族の絆を強く結びつけたい”。そうした願いから、株式会社たまやの平尾和義氏によって、県内の主要図書館へ児童図書購入資金の贈呈が始められたのは昭和62年(1987年)のことである。時代や環境の変化に沿って企業自身も変化が求められてきたなかで、児童図書購入資金の贈呈は、担当者が変われども連綿と受け継がれてきた。事業開始10年目となる平成8年(1996年)には、児童の読書感想文コンクールを実施。見識を広めてもらえればと、優秀賞10名とその保護者を国会図書館等の東京見学に招待した。

事業をスタートして20年目を迎えた平成

18年度は、11月に児童図書寄贈目録贈呈式が行われ、高松市中央図書館、丸亀市立中央図書館、坂出市立大橋記念図書館、善通寺市立図書館、観音寺市立中央図書館、三木町教育委員会の5市1町に、合計275万円が寄贈された。今年度を加え、過去20年間の累計事業金額(贈呈金)は1億275万円になった。

各自治体とも経費削減が推進される折、20年にわたり継続されている本活動は、各自治体からも財政支援として高い評価を受けるようになった。また、購入した本を使用して「よみきかせ会」が開かれるなど、本を媒介にした地域のコミュニケーションの促進にも欠かせない存在となっている。スタートして20年が経過した今こそ、財政支援にとどまらない、地域に“光”を灯す存在として、その活動の重要性が増しているといえるのではないだろうか。

県内の図書館から寄せられた感謝の声。

「平尾児童文庫」のプレートを見学図書コーナーに掲示している
坂出市立大橋記念図書館にお邪魔した。

「平尾児童文庫」の表示を始めた
きっかけを教えてください。

■西久保 長年にわたりご寄贈いただいている善意に対する感謝の気持ちとして、この社会貢献活動を始められた平尾和義様の名前を使わせていただきました。

■詫間 陳列の都合で、ご寄贈いただいた図書を集めたり、コーナーを作ったりするのは難しいので、プレートの掲示というカタチで表示させていただいています。“平尾児童文庫って何ですか？”と聞かれたときは、寄贈いただいていることをお話するんですが、みなさん驚かれます。

今年度で20年を迎えました。
どのような感想をお持ちですか？

■西久保 まさに感謝の一言に尽きますが、今強く思うのは、その先見の明です。子どもたちに読書の習慣を身につけさせるため、親子の交流のため、健全な子どもの成長のため、ということで始められたと伺っていますが、現在、問題になっているものばかりだと思いませんか？すべて先を見越していたのではと、驚くばかりです。

■詫間 読書離れのせいで、読解力、人とのコミュニケーション能力が落ちています。また、図書館への来館者数、本の貸し出し数とも



坂出市立大橋記念図書館
館長
西久保 晋さん



坂出市立大橋記念図書館
庶務係長
詫間 康弘さん

に減少していました。そこで、読書支援としてボランティアの方と協力して「よみきかせ会」を月に3回始めました。その効果として、児童書の貸し出し比率が上がってきています。

■西久保 たまや様の社会貢献活動は、寄付金額は言うに及ばず、数値では計り切れないところでの貢献が大きいのではないのでしょうか。子どもたちが手にした1冊1冊が与える影響は、計り知れないものがあります。目に見えないところで、子どもたちの健全な育成にしっかり貢献していただけていると思いますよ。

高松市中央図書館

「子どもたちに数多くの良い本を」という志を、20年間の長きにわたって持ち続けられ、図書館への児童図書の寄贈という活動を続けられていることに対し、尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちにとって、小さい頃から読書に親しむ習慣を持つことは、本を通じて正しい知識を身につけたり、いろいろな夢や希望を持つことに結びつき、健全育成に大きな役割を果たすこととなります。子どもたちや保護者が、自分たちが楽しんでいる本のなかに寄贈されたものがあることを知ると、大変驚かれますと同時に「ありがたい」「うれしい」という喜びの声が聞かれます。さらに20年継続して寄贈いただいていることを知ると、そのご厚意の大きさに驚かれます。長年にわたっての本活動は、子どもたちが本に親しむ環境作りが大きく寄与されており、その社会的意義は非常に大きいものがあると考えています。



館長
中川 仁さん

丸亀市立中央図書館

館長 宮本 博史さん

昭和62年(1987年)より毎年の寄贈をいただき、約1万2,000冊もの児童書を蔵書として受入れることができました。絵本や読み物、また調べ学習に必要な多くの本が児童コーナーに並び図書館に来館する子どもたちに利用されています。子どもたちの教育や育成は、私たち大人や社会にとって責任のある重要なことです。県内の青少年への読書活動支援として図書館にご寄贈を続ける株式会社たまや様の長きにわたる姿勢は非常に有意義なことであると考えております。これからも青少年のみならず社会に対して貢献していく企業の姿をどんどん見せて欲しいと思います。

善通寺市立図書館

20年間にわたり寄贈していただき、心から御礼申し上げます。ご寄贈の旨を市報でお伝えすると、市報を読んだ市民の方が楽しみに来館され本を借りていわれます。子どもや父母たちは、たくさんの本を読むことができるので、本が届くのを毎年待ち望んでおり、大変喜んでおります。たまや様の利益を児童へ還元されることは、地域社会に大きくつながります。これからも続けていただきたく存じます。



館長
佐々木 隆善さん

観音寺市立中央図書館

長年にわたり続けられていること、全体的に幅広く読書推進を旨とした文化活動の支えとなっている2点で、大変な意義を感じています。本館はもとより、多くの地域の図書館、多くの地域の方々から感謝していることだと思います。たまや様のお陰で、購入できた新しい本が届くたびに、館内は多くの児童と父母で賑わいを見せています。



館長
秋山 武さん

三木町神山公民館

「絵本を通して、親子の絆を強くしていけるよう、これからも絵本をいっぱい読んであげたい」。あるお母さんから、いただいた言葉です。児童書や絵本は、子どもの成長過程での情操教育のためにはなくてはならないものです。この活動は、しっかりと地域に貢献していると思います。



館長
久保 好誼さん

社会貢献活動の現場より 「次なる20年のバネに」



株式会社たまや
常務取締役
湊 貞博氏

企業としての20年には、時代の移り変わりとともに、様々な紆余曲折がありました。本活動においても、担当者として「継続する難しさ」を実感することが数多くありました。

こうして20年にわたり続けられたというのは、企業として「地域の子どもたちのために何かしたいという思い」が途切れなかった証なのだと思います。20年という実績には胸をはっていきたくですし、次代へ受け継いでいかなければいけない「思い」だと思います。

今回の受賞に際して、貴機構に参加されている方のお名前を知り、偉大な方ばかりで、正直驚きました。個人的なことを申し上げますと、しまなみ海道にある平山先生の美術館を訪れ大変感銘を受けていましたので、貴機構からご評価いただいたことは、感慨もひとしおでした。図書館や市民の方からの喜びの声、貴機構からこうして高い評価をいただいたことをバネに、さらなる20年を目指し頑張っていきたいと思っております。